

当院の人工股関節全置換術術後患者における退院後追跡調査

○山田理沙¹⁾、山本智也¹⁾、山本裕季¹⁾、矢木清美¹⁾、瀬大和¹⁾、上田将之¹⁾、高松滋生²⁾、乙川亮²⁾

1) 滋賀県立成人病センター リハビリテーション科

2) 滋賀県立リハビリテーションセンター

主旨:

近年、股関節疾患に対する手術において、最小侵襲手術やクリニカルパスなどの導入により入院・リハビリテーション(以下、リハビリ)実施期間が短縮されている。リハビリでは入院期間中に歩行訓練やADL・IADL訓練を実施している。退院後、外来にてフォローされることはほとんどなく、退院後の生活状況については十分に把握されていない。

そこで今回人工股関節全置換術(以下、THA)術後患者の退院後の生活実態を明らかにすることで、今後、入院中のリハビリ実施内容、情報提供などの関わりを検討につなげていく。

【はじめに】

股関節疾患に対する手術は先天性疾患や後天性疾患により疼痛・炎症・変性・破壊・骨折によって損傷した股関節に対して実施される。

術後、股関節痛、変形などによる脚長差や歩行障害、股関節可動障害、ADLの低下、股関節周囲の筋力低下などの改善が見込める反面、THAに代表されるように術創による筋力低下、脱臼の危険性、重量物運搬の制限、体重の維持、感染リスク、摩耗・緩みによる再置換術などのリスクや制限が生じる場合もある。

また、当院では臨床カルパスが導入されているが、近年、最小侵襲手術など技術の向上により入院・リハビリ実施期間が短縮傾向にある。その入院期間中リハビリでは歩行訓練やADL・IADLの訓練を行っているが、外来フォローの機会は少なく、そのような状況で退院後の自宅生活や社会参加がスムーズに行なえているかは十分に把握できておらず、そのことについての報告も少ない。

以上のことから今回、股関節疾患による術後患者に対し退院後生活をアンケート調査し実態調査を行うこととした。

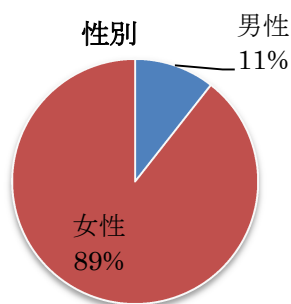
そこから整形外科的知見に加え、より現実的な生活に即したアドバイスをすることにより、安心・安定性が高く、充実した術後生活を提供でき、精神的安定やQOL向上も図ることができる。また、介護予防にもつながり、再入院等を延伸することにより、医療費等の経費削減も期待できる。この分野での報告が少ないことからリハビリにおける学術的な意義に加え、社会的な意義と波及効果は極めて大きいと考えられる。

【対象と方法】2009年4月～2014年7月末までに当センターの整形外科病棟に入院していた患者、またその期間中に股関節の外科的治療を受療された患者 236 名へ郵送によるアンケート調査を実施。

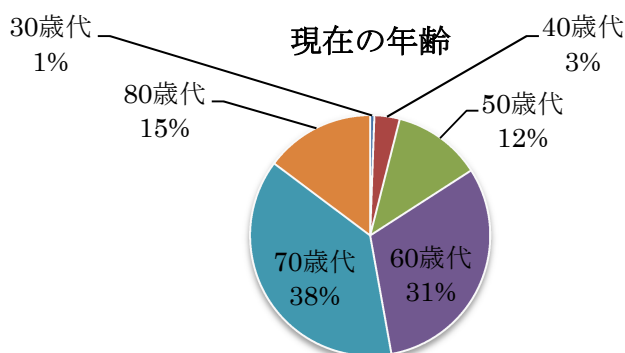
【結果】

今回のアンケート調査では、180名(回答率76%)の方より回答を得た。

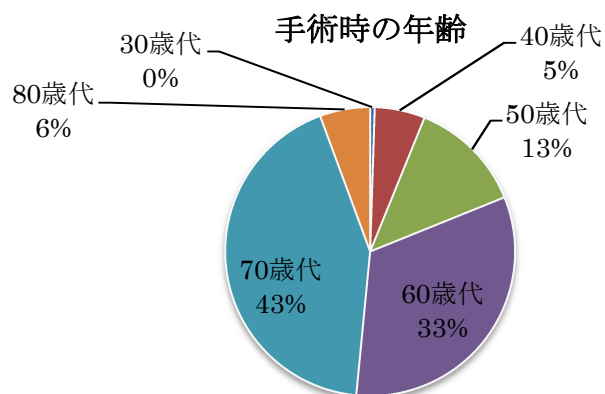
設問 1 性別をお聞かせください。



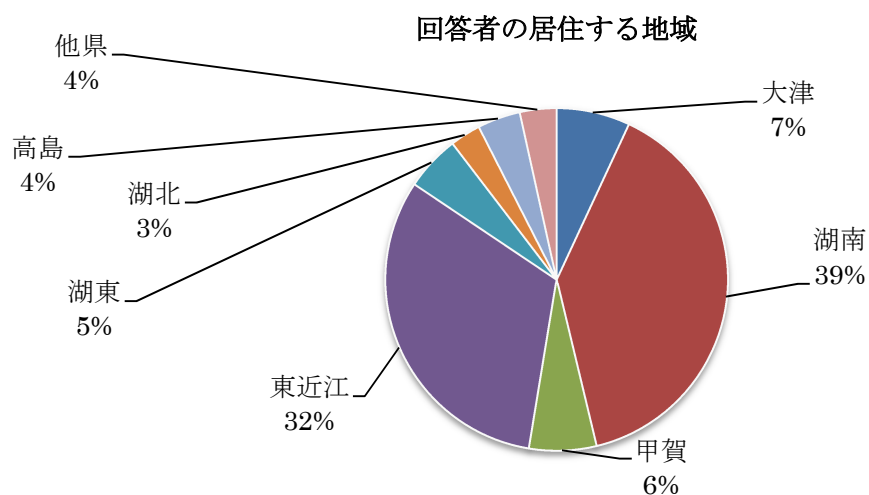
設問 2 あなたの今現在の年齢をお聞かせください。



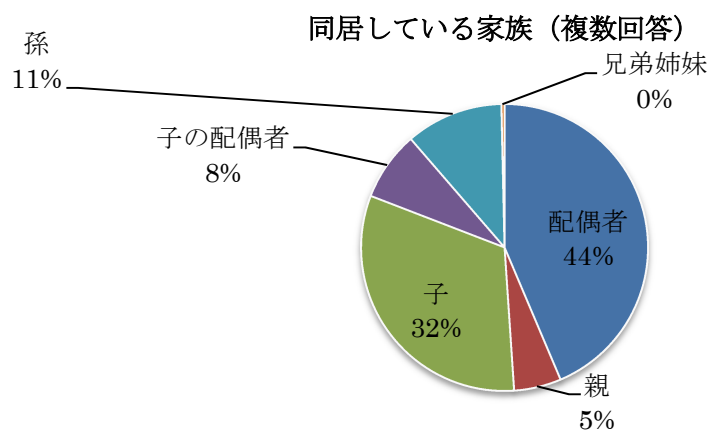
設問 3 手術時の年齢をお聞かせください。



設問 4 現在、お住まいの地域をお聞かせください。



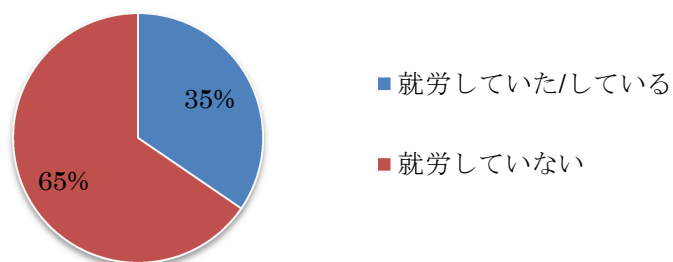
設問 5 現在と一緒に暮らされている家族構成をお聞かせください。(該当するもの全て)



n=282

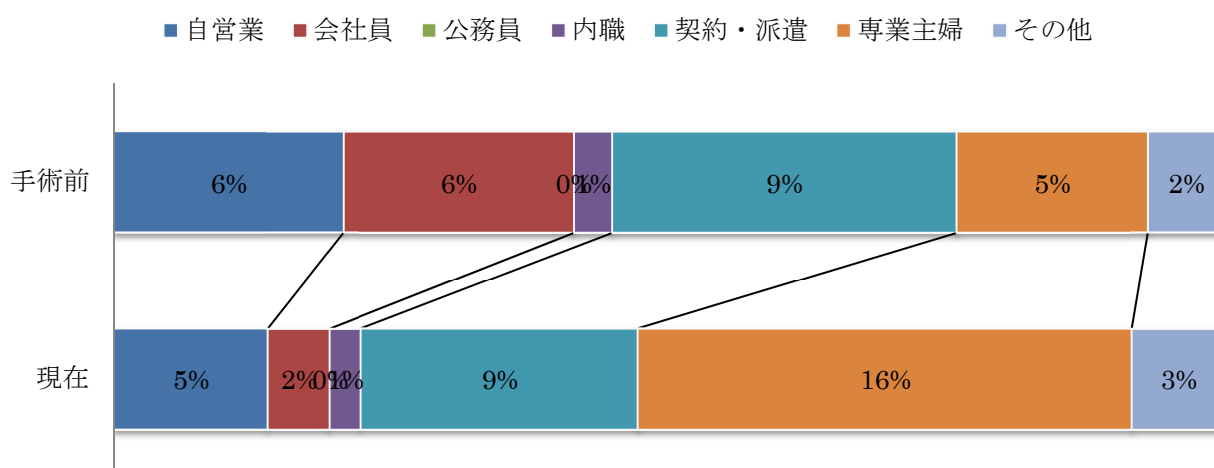
設問 6 あなたの手術前・現在の就労状況についてお聞かせください。

就労について



設問 7 設問⑥で就労していると回答された方へ、手術前と現在の職種をお聞かせください。

手術前・現在の職業



手術前では契約・派遣に続き、自営業、会社員の割合が多いが現在では自営業、会社員の割合が減り専業主婦が増加する傾向がみられた。

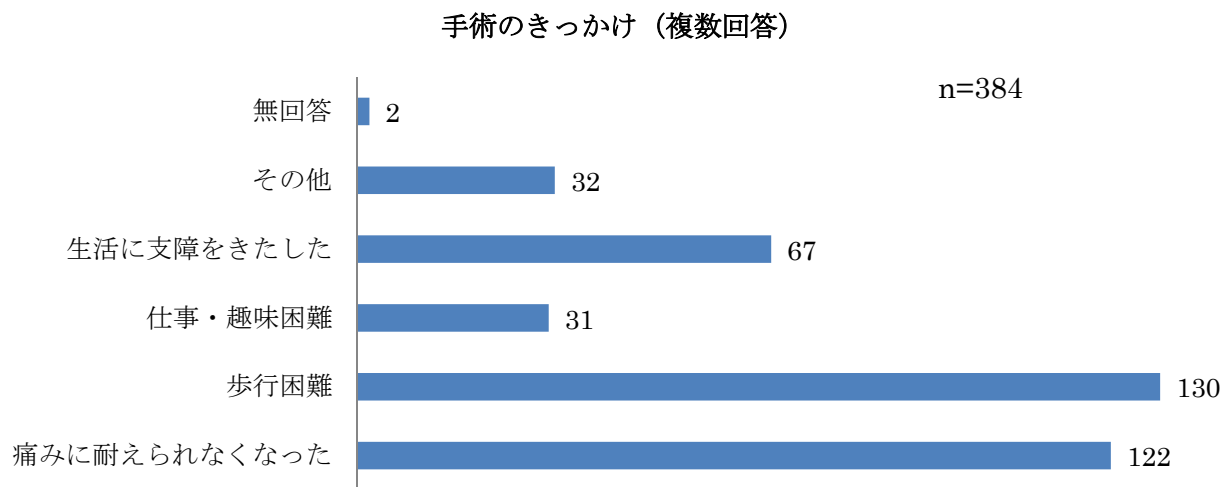
術後何らかの理由で離職されている方が多い状況であった。

設問 8 入院される以前の生活で、どのような場面でお困りでしたか。また、どのような症状がありましたか。

生活場面: 歩けないとの回答多く、少数意見では日常生活、家事動作、すべてにおいてなど

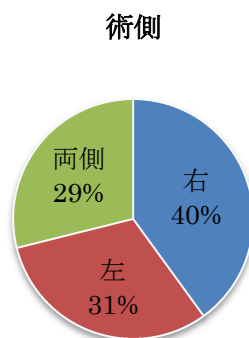
症状 : 痛みが圧倒的に多い。少数意見では歩行困難、跛行、易疲労、軋轢音など

設問 9 「入院し手術を受けよう。」と判断されたきっかけについてお聞かせください。(複数回答可)



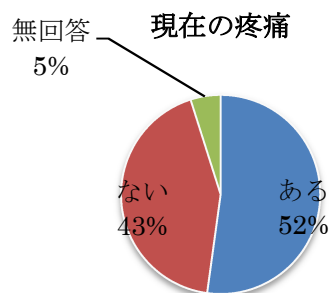
手術のきっかけとしては、歩行困難が最も多く、次いで痛みに耐えられなくなったが多かった。
重複回答可のため、生活や仕事・趣味なども少数意見ではあるが存在した。

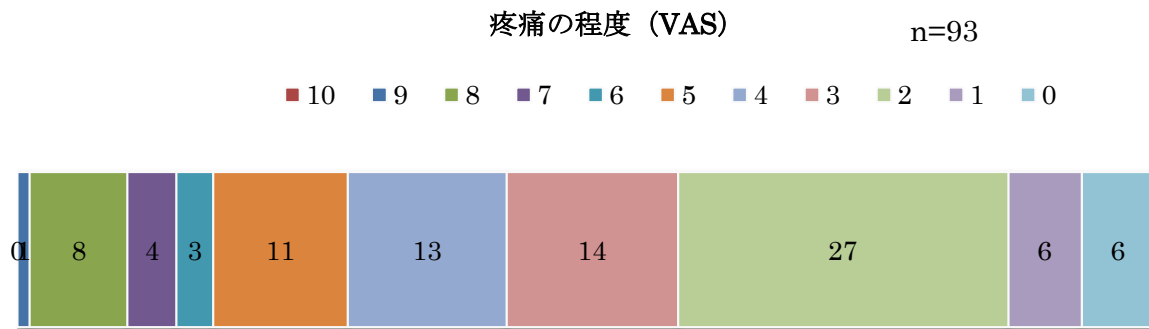
設問 10 手術された足は左右どちらでしょうか。あてはまるものに“○”をして下さい。



特に左右差はなく、今回の対象の中には両側をされている方も 29%の割合で存在した。

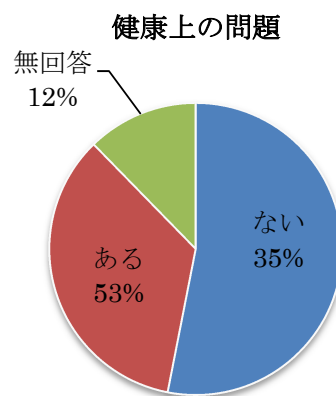
設問 11 現在、手術された足に痛みや違和感がありますか。





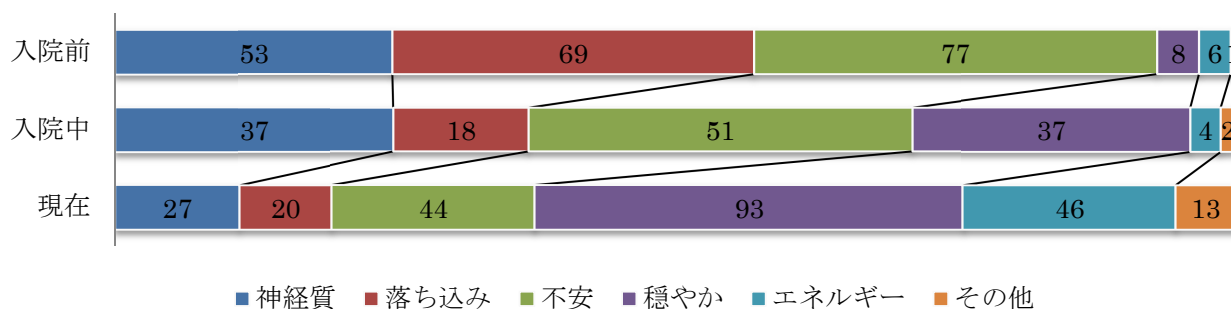
- ・現在も疼痛あるという方が 50%以上いた。疼痛の有無に関して差はなく、ありの方も軽度であった。
- ・両側手術されている方もおられ、重複回答が何名かいた。
- ・疼痛の程度は軽減しているものの、VAS5～2 程度の方が多かった。

設問 12 股関節の手術以外で日常生活に影響を及ぼしている健康上の問題がありますか。



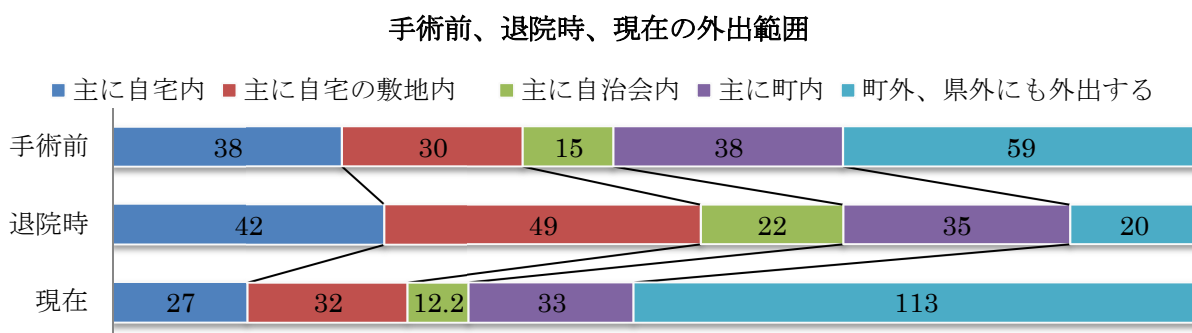
- ・あると答えた方が、50%以上いた。
- ・最も多かったのは、腰痛、膝痛の順で、運動器疾患が多かった。
- ・その他、リウマチ、視力障害、高血圧、狭心症などの内科的疾患を持つ方がおり、運動することに支障をきたす疾患が多く見られた。

設問 13 手術前、入院中、そして現在の気分の変化について該当するところ全てに“○”をお願いします。(複数回答)



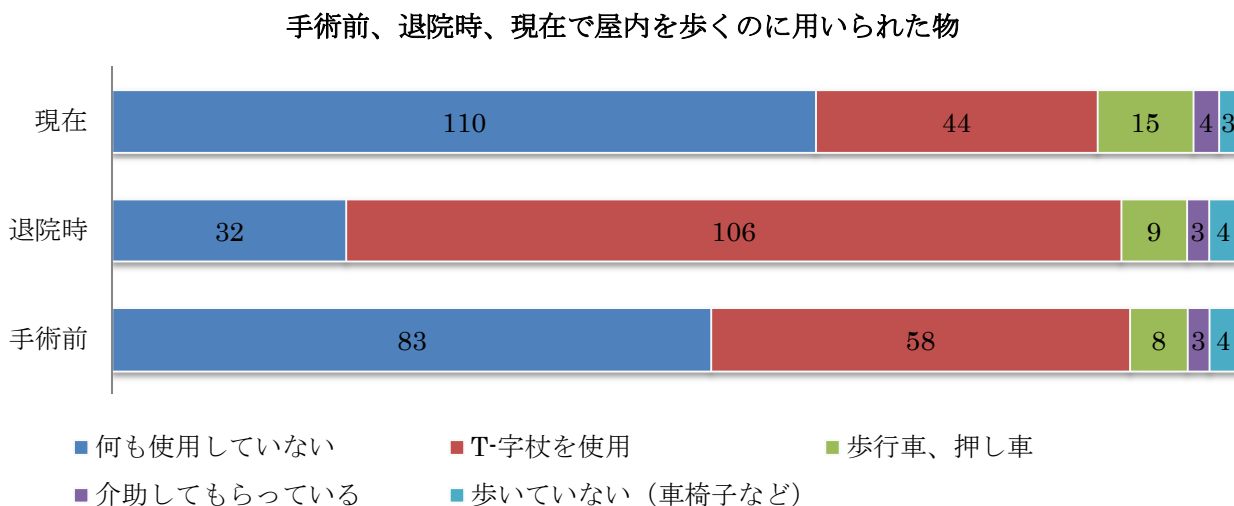
・入院前は、神経質・落ち込み・不安な気分の方が多く存在した。手術後(現在)は減少傾向にあるが、少なからず経質・落ち込み・不安な気分が継続する方がみられた。

設問 14 手術前、退院時、現在の●●の普段の外出範囲について、もっともあてはまるところに“○”をお願いします。(複数回答)



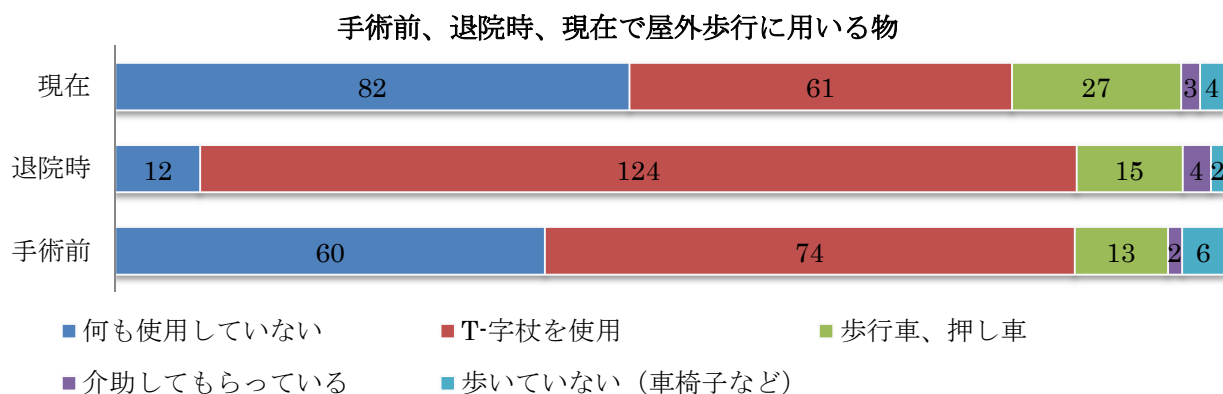
術前に比べ、現在は、全体的に活動範囲が拡大する傾向が見られた。

設問 15 手術前、退院時、現在で、●●●●屋内を歩く際に用いられていた物について、主に用いられていた物に“○”をお願いします。(複数回答)



・手術前は何も使用していない方が多く、退院時、杖を使用していた方が多いが、現在は手術前より何も使用していない方が多い。

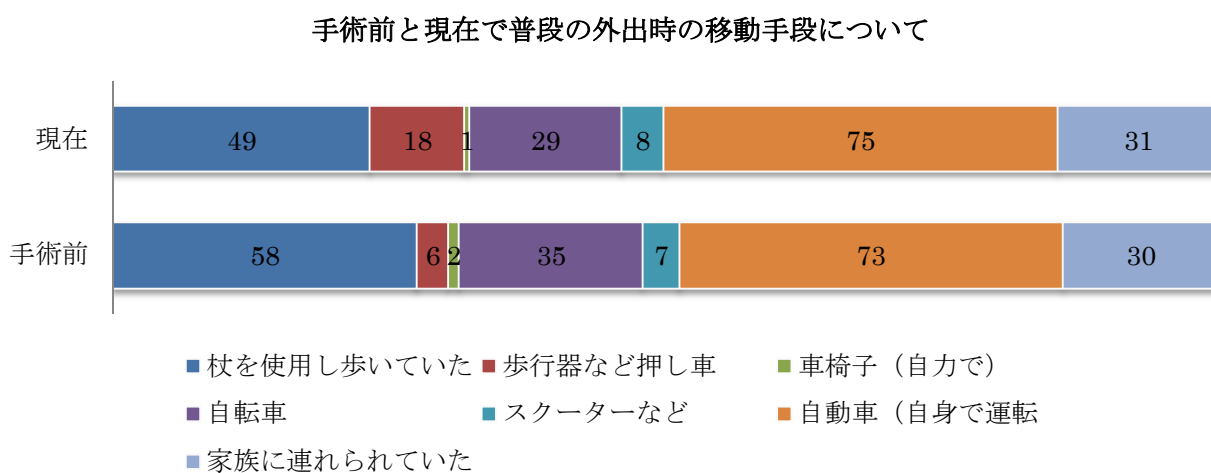
● ●
設問 16 手術前、退院時、現在で、屋外を歩く際に用いられていた物について、主に用いられていた物に“○”をお願いします。（複数回答）



術前に杖を使用しているものが多いが、術後何も使わないものと、歩行車、押し車の使用で増加する傾向にあった。

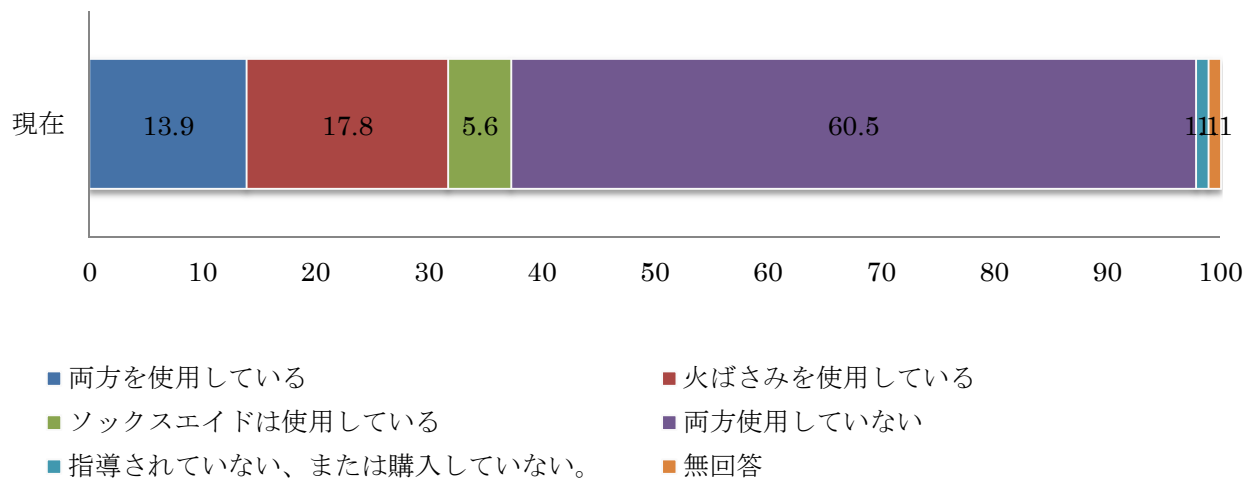
設問 17 手術前と現在で、ふだんの外出での移動手段についてお聞きます。

日々のお買い物などで、移動に用いられているものを、手術前と現在でそれぞれあてはまるものに“○”をお願いします。（主に使用していた物を、1つだけ選択してください。）



術前杖歩行、自転車を使用していたものが現在は減少する傾向が見られた。

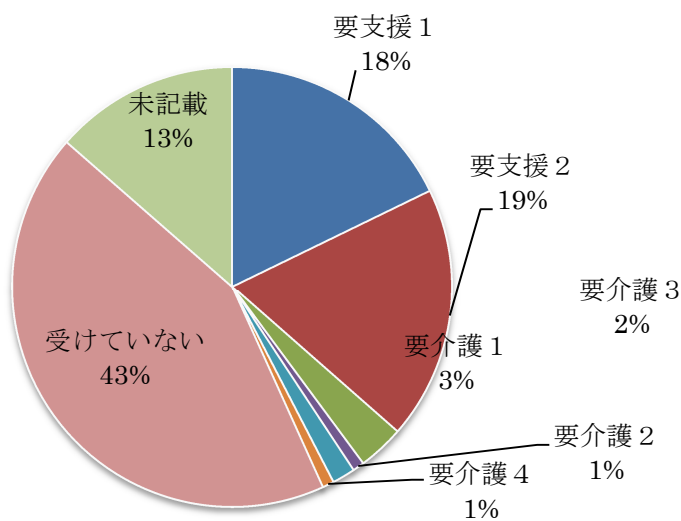
設問 18 ソックスエイド・火ばさみを使用していますか？



・両方使用していない方が60%以上、火ばさみ又はソックスエイドを使用している方は37%

設問 19 現在、介護認定を受けておられますか。

現在の要介護認定の状況
 (n = 180)

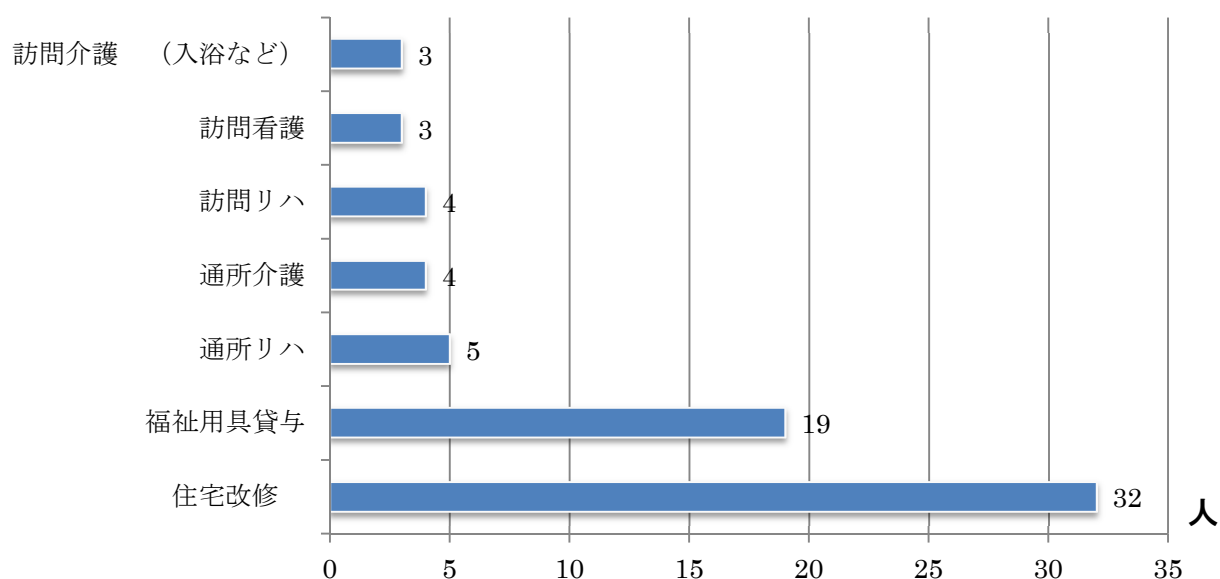


・受けている方の多くは介護予防対象者が37%見られた。

・受けている方の大半は要支援1又は2である。

設問 20 現在、利用されているサービスで、あてはまるもの全てに“○”をして下さい。

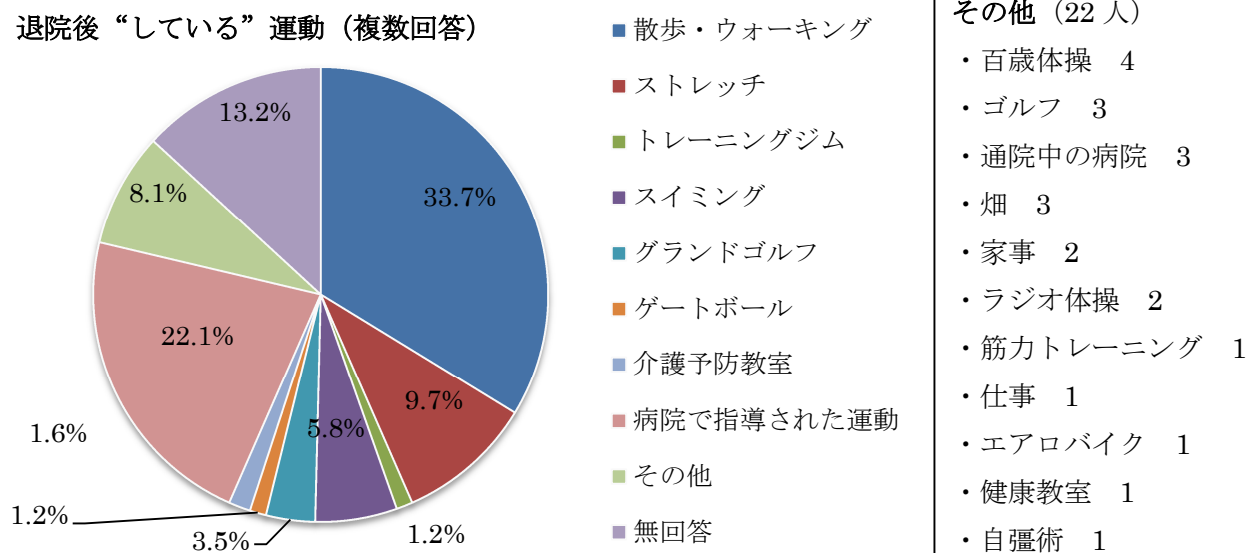
現在、利用されている介護サービス
 < 重複回答あり > (n = 180)



- ・住宅改修が最多であり、玄関や廊下、トイレ、お風呂の手すりの設置が圧倒的に多い。
- ・次いで福祉用具貸与が多く、歩行器やベッドのレンタルやシャワーいすの購入が多い。

設問 21 退院後、している運動について、あてはまるもの全てに“○”をして下さい。

退院後 “している” 運動 (複数回答)

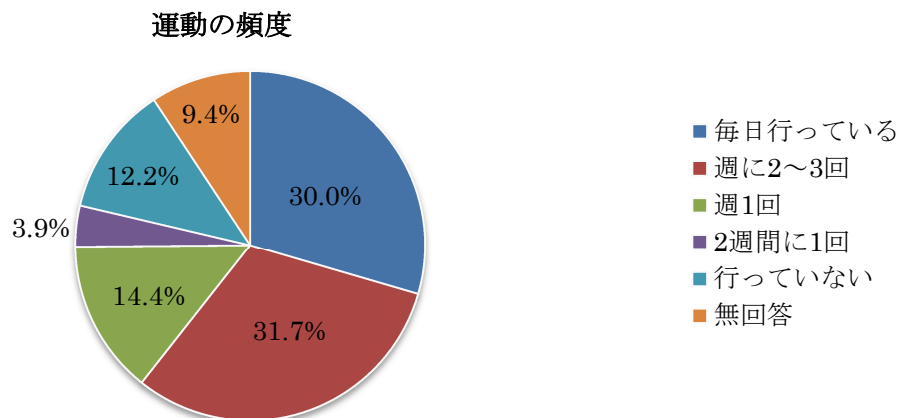


その他 (22 人)

- ・百歳体操 4
- ・ゴルフ 3
- ・通院中の病院 3
- ・畑 3
- ・家事 2
- ・ラジオ体操 2
- ・筋力トレーニング 1
- ・仕事 1
- ・エアロバイク 1
- ・健康教室 1
- ・自彊術 1

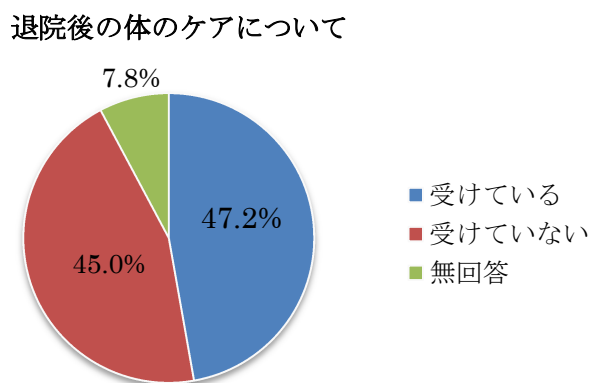
- ・最多は散歩・ウォーキング 34%、次いで病院で指導された運動、介護予防体操、ストレッチ、トレーニングジムである。
- ・その他は百歳体操やゴルフなど

設問 22 どれぐらいの頻度で運動されていますか。あてはまるもの一つに“○”をして下さい。

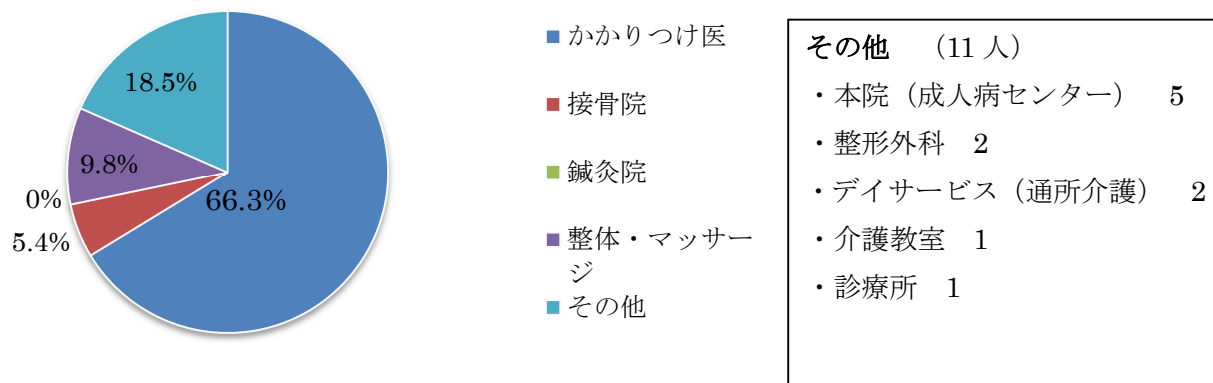


- ・最多は週に2〜3回、次いで毎日行っている、週1回、行っていないが続く
- ・行っていない理由は仕事が忙しい、健康・体力面の問題、家事や畑仕事を運動と捉えて実施している。

設問 23 退院後の体のケアを、どこで受けられていますか。

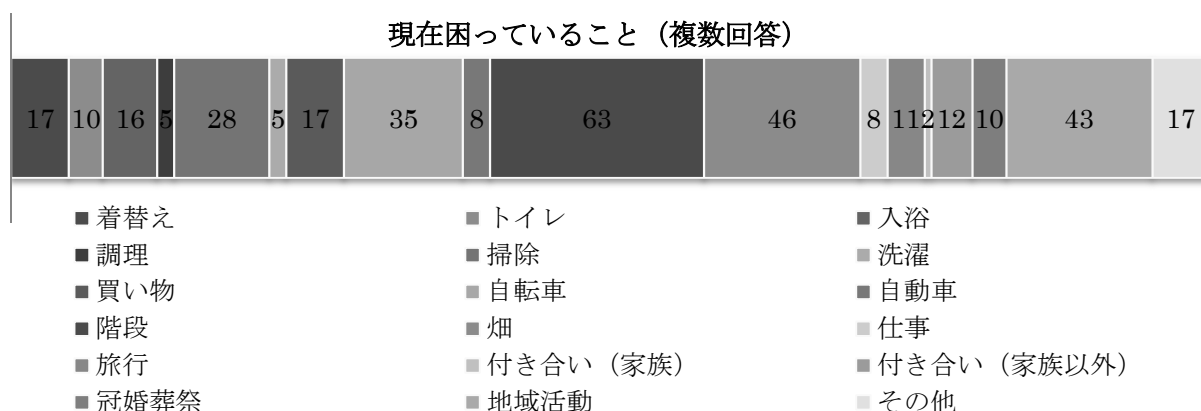


退院後のケアを受けている病院・施設



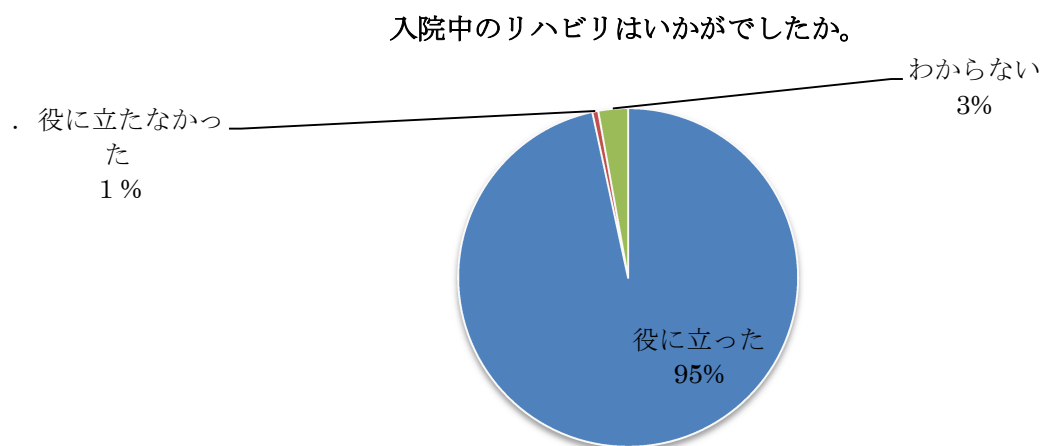
- ・ケアを受けている方は47%、受けていない方は45%
- ・かかりつけ医でケアしている方が66%、整体やマッサージ、接骨院に行かれている方もおられる。

設問 24 退院後から現在の生活の中での困っていることについて、以下の項目の該当するもの全てに“○”をして下さい。



- ・階段昇降、畑、地域活動で困っている方が多い。
- ・その他の回答では爪きり、床のものを拾うことなどが挙げられている。

設問 25 入院中のリハビリはいかがでしたか。



- ・役に立った理由としては、歩行能力の改善、日常生活動作の指導に関してなど
- ・役に立たなかった・分からない理由として2回目の手術が連休前で職員の方が休みでリハビリしてもらえなかったこと、訓練中途中退院のようであったのであったもっと訓練してほしいとの理由を挙げている。

設問 26 手術前に聞いておけば良かったと思う点があれば、自由に記載下さい。

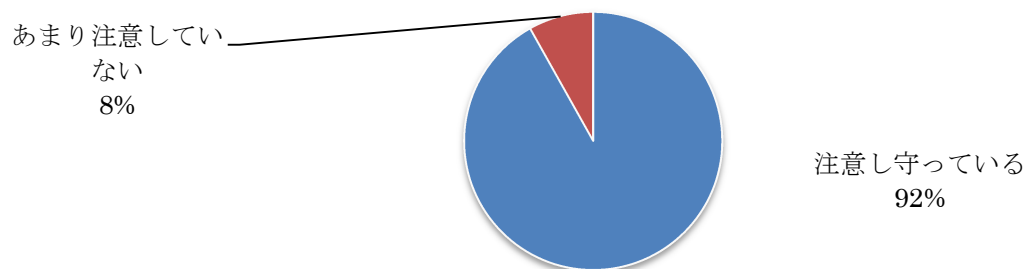
- ・どのような動きが禁忌か、術後の経過（痛みについても含む）、家でできるリハビリ等の記載が多い

設問 27 入院中に指導してもらえれば良かったと思う点があれば、自由に記載下さい。

- ・退院後にリハビリに通う必要があるのか、どのような施設に通えばいいのか、・日常生活について（入浴、靴下、車の乗降、自転車の乗降、爪切り、歩行、布団の寝方、グランドゴルフ）・体重の減らし方
- ・予後・退院後のリハビリの仕方（時間も含めて）・気持ちの持ち方（いろいろと遭遇し、精神的ダメージを受ける）

設問 28 退院後の生活の中で、してはいけない動作や足の動きに注意をされていますか。

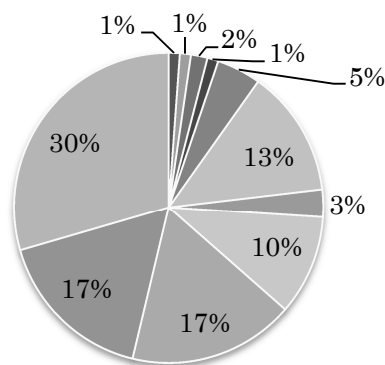
退院後の生活の中でしてはいけない動作や足の動きに注意をされていますか。



設問 29 股関節を手術されてからの生活に対するあなたの満足度を、下に示す線上で“0”を全く満足できない、“10”を十分満足 とし、10 段階で該当するところに“○”をお願いします。

満足度

■ 満足度0 ■ 満足度1 ■ 満足度2 ■ 満足度3 ■ 満足度4 ■ 満足度5
■ 満足度6 ■ 満足度7 ■ 満足度8 ■ 満足度9 ■ 満足度10



・満足度7以上の方が約75%

・満足度が低い方の理由として反対側が悪くなっている、手術最初から不満足、数ヶ月でゆるみがでた等が挙げられる。

【考察】

1. 対象者の特徴

対象は女性が 89%と多く、調査時の年齢と手術時の年齢は 60 歳～70 歳代が 70%を占めており、股関節手術は中高年女性に多かった。就労の有無については 35%が「就労している／していた」と回答。現在の職種は、自営業・会社員の割合が減り専業主婦の割合が増加していた。これは、手術をきっかけに退職される方がおられ、職業継続の困難さが示唆された。手術のきっかけは痛みや歩行困難が多く、一般的な手術の動機と同様であった。ただ、現在も疼痛が軽減しているものの残存している方が 50%以上存在している。また、股関節以外の健康上の問題を持つ方も 50%以上存在し、腰痛・膝痛などの運動器疾患のみならず、視力障害や糖尿病・心疾患等内部障害を合併されている方も存在した。これは、股関節疾患の主な手術対象者である中高年女性が、高齢化に伴い併存疾患を多く抱えている現状が浮き彫りになっている。

2. 退院後の活動範囲と運動の継続

退院後の活動範囲は拡大しており、屋内・屋外歩行時に杖を使用していた方が現在では独歩の割合が増加している。また、ソックスエイドや火ばさみは約 35%が現在も使用している。物品の使用は退院後から現在まで減少していくが、患者の能力に応じて使用方法の指導は必要だと考えられる。運動頻度は約 80%が毎日～2週間に1回運動を行っており、散歩・ウォーキング(34%)、病院で指導された運動(22%)・ストレッチ(10%)などが行われていた。入院中に指導した運動やウォーキング等を継続して実施されている方が多く、退院後も一定の身体機能の向上と活動範囲の拡大が得られていることとに繋がっていることが示唆された。しかし、少なからず精神的不安を抱えている方や杖・自転車を使用していた者が減少し、歩行車・押し車を使用する方もみられた。

3. 介護保険とサービスの利用

介護保険を受けている人は 43%であり、多くは要支援1又は2の認定を受けている。また、利用しているサービスとしては福祉用具(歩行器の貸与やシャワーいすの購入)や住宅改修(トイレやお風呂の手すりの設置)がほとんどであった。一般的なお風呂椅子への着座など退院後徐々にできる動作となるが、本人の能力に合わせて、介護保険の情報提供や福祉用具や杖の使用継続等の指導は必要であると考えられる。

4. 現在困っていることと入院中のリハビリについて

現在困っている日常生活の項目については階段昇降・畑・地域活動の順に多く、ADL(日常生活動作)よりIADL(手段的日常生活動作)の項目が多く挙げられていた。これは、退院後徐々に活動範囲が広がっていることと、入院中にそれらを予測した具体的な動作指導などが不十分であったことを表している。

入院中のリハビリについては役に立ったが95%となっており、歩行能力の改善やADLについての指導に関して、満足度が高かった。一方、入院中に指導してもらえば良かったと思う点は退院後のリハビリの有無(どのような施設に通えばいいかも含む)、退院後のリハビリの方法(時間も含める)・気持ちの持ち方などが挙げられていた。上記 2. 退院後の活動範囲と運動の継続の結果と退院後のリハビリ内容についての回答から、THA 術後の時期に応じた自主訓練の指導が必要であると考えられる。また、当院では今年度に THA 患者へのパンフレットが作成され、1月以降から配布されており、禁忌肢位に注意した ADL はある程度指導できているが、IADL も患者個々に合わせた指導が必要であることが考えられる。

今回の調査結果より、ADL だけでなく IADL など患者個々の生活スタイルに合わせた指導を行うための情報収集や指導方法、介護保険など地域資源の情報の提供、退院後のリハビリについての必要性の有無、自主訓練方法などの検討が必要であることが分かった。これらを踏まえ、今後さらなる調査・研究を実施していく。

【結論】

今回のアンケート結果をもとに ADL のみならず IADL も含めた指導内容を見直し、退院後の生活を見越し個別性に配慮した指導内容と方法を現在使用しているパンフレットへ反映させていく必要がある。また、訓練場面でも個々の状況に合わせた生活スタイルや環境整備について十分指導したうえで、生活支援する必要がある。